

第1回 ふれあい観察会

コアジサシと浜辺の生きものに会いたい

島村 信吾 (千葉市)

日 時:2016年6月18日(土)

場 所:検見川の浜

参加者:大人17名、子ども5人 計22名

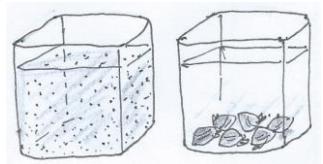
指導員:伊藤道男、島村信吾、田島正子、谷 英男、平田稚江子、盛一昭代

6月の環境月間に千葉市環境保全課主催で行われているが、今年も好天の中、検見川の浜で開催された。

①浜辺の生き物、②コアジサシ保護区、③海岸林の3ポイントを観察。

① 突堤岩場の潮だまりや砂浜で、貝類、カニ、小魚、フジツボ、イソギンチャクなどを探す

- ・アサリの海水浄化実験（干潟で潮干狩りをし、カップに米のとぎ汁を入れ、貝を入れないカップとの比較をする）→
- ・食物連鎖の話（プランクトン～鳥）
- ・波で削られた砂浜の補給に使用した山砂に混じっていたエゾタマキガイなどの貝の化石（ちはら台方面の13万年前の地層）
- ・塩分が多そうな浜辺に植物が育つ理由（ハマヒルガオ、ハマボウフウ、シバ、ツルナ、コウボウムギ、オカヒジキ、ハマダイコンの観察）



② コアジサシ（最重要保護生物A）の保護について

- ・ロープ内で営巣の形跡なし。10年くらい前の2000羽が飛来した頃の話。
- ・他に検見川の浜でみられる鳥たちは？

③ 海岸林：どんな種類の樹木がある？

- ・埋立て前の幕張海岸にあった樹種が植林されている。クロマツ、タブノキ、マテバシイ、ヤブニッケイ、シロダモ、クスノキ、シャリンバイ、トベラ、グミなど。
- ・樹木の曲がり方の特徴～強風による風倒木の姿を観察しながら木陰を歩く熱中症対策。
- ・防風林、防塩林、防砂林、防音林としても機能している

ほとんどの参加者は地元近辺の方。毎年参加されている家族連れが多く、特に小学2年生の双子の男の子は、田島さんのアシスタントを完璧に務められるほどの磯知識の持ち主であった。干潟にはモンブランのようなタマシキゴカイの糞と、ニワトリの卵大の柔らかい卵のうが敷きつめられていた。ハゼやコイワシ、ボラの幼魚の群を網でくつたり、熱中症を心配しながら熱中した。

残念ながら鳥の姿は全くなし。当然のことながらコアジサシ、シロチドリも見かけないし、例年だと見られるカワウの大群の飛行なども無かった。目立ったのは外国人と思しきグループがホンビノスガイを大量に採りまくっている姿。他にも200人ほどが浅瀬で潮干狩りを楽しんでいた。今年は豊漁らしい。

浜辺の生き物を分類し、その多様性を確認した。赤潮、青潮の恐れもなく、小魚も元気であり、ゴカイの穴もたくさん開いている干潟であった。市の鳥、コアジサシを忘れないよう、環境を整えて飛来を待っていたい。